

## 岩田 キヨエさんの手記

2022年

事件の日、警察にあった棺にはビニールが貼ってあったので、娘の孝子を触ることができませんでした。サリンが付着しているからと言われても、どうしてサリンなのかもわかりません。警察の人は、出入りが激しく右往左往していて、私に説明する余裕もないようでした。

2日後に息子が遺体を引き取りに行き、孝子が帰ってくるまで、私は何も覚えていません。実家から姉や姪が来て、お父さんと一緒に葬儀の準備をしてくれました。私には、「ご飯たべなきゃ」と言っているようでした。あの頃のことをお父さんに聞くと、私は何もしないでぼーっと座っていた、と言うんです。喪服も姉に着せてもらいました。

「お母ちゃん、今日は美容院へ行っといで」と言って、元気に出て行った孝子。もう何も話せない。一緒に買い物にも行けない。ダイビングが好きだった孝子、いつも洗ってあげたウェットスーツはハンガーに掛かったまま28年、私は溜まった埃をとることができません。

(2022年11月1日記)

2019年

息子が「ただいま」って帰ってくると、「姉ちゃんお帰り！」って言うんです。姉弟だから声がよく似ていて。

あの日は、3時ころにパーマ屋から帰ってくるなりお父さんから電話があって、「何してるんだ」と怒鳴られました。築地署から、続けざまに「孝子が死んだ」って。

電車が思うように動かなくて、やっと築地まで行ったんです。そこからタクシーで、着いたら月島警察でした。築地警察って言ったつもりが、パニックになっていたんでしょうね。地下に案内されて、冷蔵庫みたいなところをガチャーン!と開けたら、ヒューって冷たい風がきて、孝子が柩に入っていました。

孝子の趣味はスクーバダイビングで、帰ってくると、砂のついたウェットスーツを一緒に洗いました。安い給料で少しずつ、水中カメラも買って、「お母ちゃん、ぜんぶ揃ったよ」って言ってたと思ったら亡くなっちゃって。

12年前にお父さんが死んだときにもパニックになっちゃって、こんな時に孝子がいてくれたらって、い  
つまでもオウムへの怒りが収まりません。

(2020年1月6日記)